

文化ボランティアの変容を考える 3つのキーワード

参加、サイトスペシフィック、中動態

ふくおか文化ボランティアフォーラム2017
2017年11月4日(土)

藤原旅人

九州大学大学院芸術工学府博士後期課程
さいたまトリエンナーレ2016サポーターコーディネーター

1. アートボランティアの成立と展開

- ・「アートキャンプ白州」1988-1999ボランティア制度を積極的に導入
 - ・「越後妻有 大地の芸術祭 アートトリエンナーレ」2000年～こへび隊結成
 - ・「瀬戸内国際芸術祭」2010年～こえび隊結成
 - ・「横浜トリエンナーレ」2001年～サポーター(ハマトリーツ)結成
 - ・「別府現代芸術フェスティバル 混浴温泉世界」2009年～ボランティア(ばんだいさん)結成
 - ・「あいちトリエンナーレ」2010年～ボランティア結成
 - ・「さいたまトリエンナーレ」2016年～サポーター結成
-
- ・現在のアートプロジェクトの運営のボランティアの力は欠かせない(地域とアーティストの橋渡し役、運営の側面からも)
 - ・誰でも参加可能である(職能はほとんど関係ない)
 - ・その結果、アートボランティアの経験を経ることで他者からの承認や、主体性の発揮、セルフエスティーム(自尊感情)を獲得の場になっている
-
- ・しかしながら誰でも参加できるというハードルの低さがアートボランティアの質の低さの問題やアートボランティア活動自体が単純な作業(労働)になりがちである。

2. アートプロジェクト、国際芸術祭台頭の要因

(1) まちづくり、観光振興

アーティストの活動が美術館ではなく、日常の空間で活動が展開されている。
学校(使われなくなった学校も含む)、商店街、駅、港、工場

(2) コミュニティの活性化

「プロセス」を重視するプロジェクトが多く、その過程の中でコミュニティが再認識されたり、新しく形成される

(3) アイデンティティの確立

「サイトスペシフィック(その地域の特性)」を生かした作品重視

(4) 他分野との連携(教育、環境、福祉)

アウトリーチ、アウトサイダーアート、アール・ブリュット活動等...

(5) 社会包摂・共創

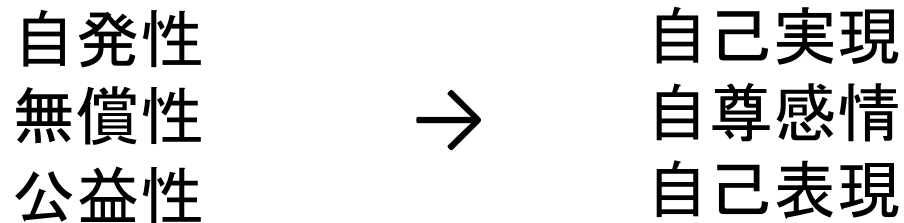
多様な価値観、多彩な担い手の発生

アートプロジェクトは多様な立場の人を巻き込みながら活動を行う。

自治体、大学、企業、市民グループ...等

3.アートボランティア参加者の変容

アートボランティア活動への参加動機



文化活動に無関心・無頓着・無防備な状況

文化資本(ピエールブルデュー)から見てもお寒い状況

4. 私たちを取り巻く現状

- ・進化するインターネット社会環境
- ・誰も助けてくれない自己責任社会
- ・格差社会の蔓延
- ・非正規労働や搾取的ブラック企業の横行

5.書を捨てよ、町へ行こう(寺山修二)の教育現代版が展開

- ・インスティチューションからの離脱
美術館・劇場・映画館・文化会館から現地・現場へ
- ・インターンシップ
社会を学ぶ実践教育
- ・アクティブラーニング
- ・ワークショップ

(6) さいたまトリエンナーレ2016

「さいたまトリエンナーレ2016」

- ・2016年9月24日(土)～12月11日(日)[79日間]
- ・開催エリア: 与野本町～大宮駅周辺、
武蔵浦和駅～中浦和駅、
岩槻駅周辺
- ・さいたま市ではじめての国際芸術祭
- ・34組の招聘作家によるアートプロジェクト
- ・さいたま市文化芸術都市創造条例 を大きく象徴する存在

さいたま市を「生活都市」と位置付ける

「ソフトアーバニズム＝柔らかな都市計画」

- ・さいたまトリエンナーレを単なるアートイベントの開催ではなく都市計画の一つとして位置付け

7.アートボランティア活動の可能性

参加 Participation

サイトスペシフィック Site-specific

中動態 Moderate (Middle voice)

参加 Participation

- ・消極的・受身的参加ではなく、緩やかに参加し、寄り添っていく、介添えしていく
- ・活動への参加から、居場所づくり、仲間づくりへ
- ・他者からの評価・承認
- ・自尊感情（セルフエスティーム）の獲得
- ・自己実現から自己表現へ

サイトスペシフィック Site-specific

- ・場所性
- ・その場所ならではの空気、景観、日照、気流、雰囲気、アウラ
- ・その地域の文脈から生まれる土地柄や地域性
- ・人々の価値観や気質
- ・その場所に帰属する営み全体の価値体系や場所の特性

中動態 Moderate(Middle voice)

- ・自我の獲得を目指した近代意識に対して〈わたし〉のありかたを問い直す
- ・能動でも受動でもない
- ・主体(する)でもない客体(される)でもない
- ・意思でもない依存でもない
- ・表現者でもない観客でもない

8.文化ボランティアの可能性

- ・中動態としての社会スタンス
- ・自律的な主体を持った行為ではなく、他者との関係性の中から生まれる行為
- ・他者からの影響を受けつつ、その過程の中で自分の意思を育んでいく
- ・自己責任社会を克服
- ・お互いさま、おかげさま、互助、共助、公助、相互扶助の世界観へ
- ・自己実現→自己表現→自己獲得へ

ご清聴ありがとうございました。